

国際交流基金助成事業報告書

大阪医科薬科大学
薬学部 6 年次生
H.K

1. はじめに

この度、国際交流基金による助成金の援助を受け、2026 年 6 月 25 日から 6 月 27 日までの期間、タイ（バンコク）において開催された、9th International conference and exhibition on pharmaceutical sciences and technology (PST2026) へ参加し、自身の研究成果を発表しましたので報告いたします。

2. 学会について

International conference and exhibition on pharmaceutical sciences and technology は、タイ国内の大学や薬学関連団体が主催する国際学会であり、薬学および関連分野の研究者、学生、医療・製薬分野の実務者が一堂に会し、研究成果の発表や情報交換を行いました。本年度の学会では、「Sustainable Development in Pharmaceutical Sciences and Technology（薬学および製剤技術における持続可能な発展）」をメインテーマとして、製剤設計や薬物送達システム（DDS）、医薬品化学、生物薬剤学など、幅広い分野における最新の研究成果が発表されました。また、活発な質疑応答や意見交換が行われ、参加者同士が研究に関する知見を共有する場となっていました。本学会は、本学の協定校であるシーナカリンウィロート大学が運営を担当し、タイ・バンコクの Ambassador Hotel Bangkok において開催されました。



学会会場

3. 学会の様子

発表形式は特別講演・口頭発表・ポスター発表があり、対象分野は製品開発・薬物送達、医薬品化学・生薬学、生物薬剤学・薬理学・毒性学、その他の 4 つのトピックに分かれていました。私は製品開発・薬物送達分野において、“Amorphous Composite Nanoparticles Formation Induced by Phase Separation and Binary Coprecipitation” をテーマにポスター発表を行いました。また、口頭発表で本研究室の大学院生の中山さんが、特別講演では戸塚教授が招待講演として発表されました。会場には 100 題を超えるポスターが展示され、多くの参加者が各発表ブースで活発に議論を行っていました。私は今回が初めての英語による国際学会での発表であり、さらに 45 分間の発表を 2 日間担当したため、発表前は緊張していました。発表では、研究背景や実験方法、研究結果について説明し、参加者からの質問に対して英語で質疑応答を行いました。事前に発表内容や想定される質問への回答を準備していたことで、落ち着いて説明できた場面もありましたが、その場で考えて回答しなければならない質問もあり、専門性の高い内容を英語で正確に伝えることの難しさを実感しました。一方で、自身の研究について海外の研究者や学生と直接議論することができ、普段の学内発表とは異なる貴重な経験となりました。

また、空き時間には他のポスター発表や口頭発表も聴講しました。自身の研究分野に近いテーマだけでなく、さまざまな研究発表を通して最新の研究動向に触れることができ、研究内容や発表方法についても学ぶことができました。今回の学会参加を通じて、自身の研究を客観的に見つめ直すとともに、今後さらに研究への取り組み方や英語力を向上させる必要性を改めて感じました。



ポスター発表の様子



口頭発表の様子

4. タイについて

学会の空き時間を利用し、バンコク市内の寺院を訪れました。タイには数多くの歴史ある寺院が存在し、金色に輝く仏塔や精巧な装飾が施された建築物から、タイの歴史や仏教文化に触れることができました。境内には多くの参拝者や観光客が訪れており、現地ならではの穏やかな雰囲気を感じることができました。

また、現地の食文化を体験するため、現地のタイ料理を味わいました。中でもトムヤムクンは、本場ならではの風味を楽しむことができ、日本で食べるものとの違いを実感しました。さらに、街中には数多くの屋台が立ち並び、昼夜を問わず多くの人で賑わっていました。調理の様子を目の前で見ることもできるほか、地元の人々と観光客が同じ空間で食事を楽しむ様子が印象的であり、日本とは異なる食文化や生活様式を肌で感じることができました。

加えて、バンコク市内では近代的な高層ビルや大型商業施設が立ち並ぶ一方で、歴史ある寺院や昔ながらの街並みも共存しており、伝統と発展が調和した都市であることを実感しました。今回の滞在を通して、タイの歴史や文化だけでなく、人々の暮らしや食文化にも直接触れることができ、大変貴重な経験となりました。



寺院



トムヤムクン



屋台の様子

5. 終わりに

この度、国際交流基金助成事業の助成金により、9th International conference and exhibition on pharmaceutical sciences and technology (PST2026)に参加させ

ていただくことができました。本学会では、自身の研究成果を国際的な場で発表するとともに、多くの研究発表に触れることで、研究に対する理解をより深めることができました。また、英語での発表や質疑応答を経験したことで、自身の課題を明確にするとともに、国際的な場で研究成果を発信することの意義を実感しました。本学会で得られた経験や学びを今後の業務にも活かし、専門知識だけでなく、国際的な視点を持って課題に取り組める人材を目指してまいります。

最後に、このような機会を与えてくださった、戸塚裕一教授をはじめ、内山博雅先生、田仲涼真先生に心からの感謝の意を表し終わりの言葉とさせていただきます。